



No.56 香港は終わった 時間を味方にする中国



参考 : https://www.nikkei.com/article/DGXMZO60955130Q0A630C2MM0000/?n_cid=NMAIL007_20200630_H

いよいよ中国が本気になりました。

香港市民に対して中国政府が直接法を執行するという事態はひとつの大きな転換点です。

香港島はもともとアヘン戦争の結果イギリスに割譲された植民地でした。隣接する九龍半島新界地域は99年間、中国からの租借地でしたが、期限が来た1997年にイギリスは租借地だけでなく香港全体を中国に返還してしまいました。

中国は当時の共同声明で、人権の保護や司法の独立などイギリスのもとで独自に発展した社会経済システムは、50年変わらない(remain unchanged for 50 years)とっていました。しかし英国軍が撤退した香港で、市民の抗議デモを実力で押さえ込む中国政府を排除するのは困難です。

一方中国は深センに世界最先端の大都市を作り、広州と一体となった大湾区(ビッグベイエリア)で巨大な経済圏を形成して、香港の経済的優位を吸収しつつあります。もはや何の後ろ盾もない香港の自由人のために世界ができることは、中国ではない香港の立場を強め、連帯して中国の支配の浸透を遅らせることでしょう。

ところが香港への関税優遇措置の廃止など、トランプが逆方向に向かうおかげで、中国は労せず一国二制度の無力化を速めることができます。一部中国人のアメリカ入国の拒否など、中国は何の痛痒も感じないでしょう。

香港に主権を持つ中国は、ほうっておいても50年経てば、一国二制度などと言う必要すらなくなるのです。

7月1日には香港返還から23年。北方民族支配下にあった清の時代のアヘン戦争の恥辱を雪ぎ、世界大国を目指す中華民族の中国から見れば、50年ぐらいものの数ではありません。ましてやトランプのように逆噴射してくれれば、時代は加速してますます有利になります。

中国が強いのは時間を味方しているからです。

この恐ろしさを実感するのは台湾・・・